

# 業界ほっとNOW

## 『関東で快適な住まいと環境を考える会』総会を開催しました!!

6月19日(火)に、第1回総会を開催いたしました。平成23年度の報告、平成24年度計画の発表、地域型住宅ブランド化事業提案の説明を行い、また、当会の役員改選により、新体制が整いました。

平成24年度は、国の掲げる「低炭素社会」実現に向けた動きを見据え「今、求められる地域住宅」について、多くのことを学んでいきたいと考えております。

そのひとつとして、賛助会員である(社)パッシブハウス・ジャパン代表理事の森みわさんを講師に招いての勉強会も実施いたします。

住宅を高性能化し「燃費」を少なくする。そして、地域の気候と環境を考慮した快適な家づくりを目指していきます。自社のブランドをつくり、素敵な住まいを提供していきましょう。

この他、会員交流(情報交換)、経営戦略等のセミナーも企画しますので、是非、ご参加頂ければと思います。

当会に、ご興味ある方は、下記まで、お問い合わせください。

お問い合わせ先：事務局 大和屋(株)・谷



▲ 記念すべき、第1回総会の様子



▲ 新会長挨拶：(株)石井工務所・石井行夫 様

# なるほどナビ



## こだわりのレッドパイン

大和屋のレッドパインは他とはちょっと違います。ずっと持ち続けているレッドパインのこだわりをご紹介します。

### ■ こだわりその1 ゆっくりと育った木

寒ければ木の成長は遅くなります。ゆっくりと育った木は木目がつまり、見た目にも美しい材木になり、強度や、変形にも強くなります。市場には60年程度のパイン材が多いですが、大和屋のパインはスウェーデン産、樹齢80~120年以上のレッドパインにこだわります。

### ■ こだわりその2 「8%」にこだわる

「8%」これは大和屋の商品の標準的な含水率。ここまで乾燥させるには、良質な素材を使用しないと製造ロスがとて多くなります。価格は上がってしまいますが、寸法安定性が高く、反り狂いも少ないのでクレームもロスも低減。結局は必要だからこそ、こだわっています。

同じ材種でも、いろいろ違うのが無垢材。面白いところでもあり、難しいところでもありますね。



▲ 詰まった木目のレッドパイン



▲ 含水率にもこだわり

(山岡)

# 大和屋だけのオリジナル



スウェーデンから直輸入を始めて、今秋15年目を迎えることになりました。「レッドパインの大和屋」として、様々な商品をご提案してきましたが、現在のレッドパインフローリングのラインナップをご紹介します。



▲ 素足が気持ちいいレッドパインフローリング



▲ レッドパイン苗木



▲ 経年変化の様子(10年目)

フローリングは飴色となり、家族の成長とともに味わい深くなる商品です。

## 【シリアンシリーズ】

### 特徴

大和屋直輸入第一号  
ロングセラー商品  
1100時間温水床暖房  
熱耐久試験データあり  
低温床暖房(表面温度28°C)対応可能

仕上げ	寸法(長×巾×厚)
無塗装	3830×137×20 (6入)
ライ&オイル&ワックス	3830×137×20 (6入)
ホワイト	3830×135×20 (6入)
浮造りグレー	3830×135×20 (6入)
オイル&ワックス	3830×137×20 (6入)

※含水率 8%±2

## 【北欧シリーズ】

### 特徴

179mm×30mmの厚物フローリングは持続可能な森林「FSC」の認証商品。15mm~30mmとさまざまなサイズに対応

仕上げ	寸法(長×巾×厚)
無塗装	3850×179×30 (3入)
無塗装	3850×136×30 (3入)
無塗装	3850×136×20 (6入)
ホワイト	3850×112×15 (8入)
ライ&オイル	3850×136×20 (6入)
ライ&オイル	3850×112×15 (8入)

※含水率 8%±2

## 【欧州シリーズ】

### 特徴

リフォームに最適なフローリング。表面がサンダー仕上げとなっている為、そのまま塗装工程に入れます

仕上げ	寸法(長×巾×厚)
無塗装	2473×137×19 (6入)
無塗装	1973×137×19 (3入)
無塗装	1820×137×19 (6入)
アウロオイル	1973×137×19 (6入)

※含水率 9%±2  
(野本)

## 海外だより ~Earth Culture~

### 快適でエコ(ドイツ)



▲ CO<sub>2</sub>削減や渋滞解消に繋がるレンタサイクル



▲ パッシブハウス国際カンファレンス

今回は、省エネの先進国のドイツを紹介いたします。ハノーバーの駅には、買い物に訪れた人や観光に訪れた人が、気楽に使えるレンタサイクルが設置してあります。自動車から排出されるCO<sub>2</sub>削減や渋滞解消に繋がり、訪れた人もムンムン気分、ショッピングや観光を楽しんでいます。

住宅では、パッシブハウスが義務化の方向に進んでいます。国や州が一体となって様々なところで、快適な暮らしと省エネに取り組んでいます。

(石原)